

三期目の習近平政権始動と 中国政治、経済、社会の行方

東京財団政策研究所上席研究員

柯^か

隆^{りゅう}

- * 中国の「反スパイ法」の執行
- * 景気の急減速とゼロコロナ政策の転換
- * 減少に向かい始めた中国の人口
- * 今の中国が台湾侵攻出来ない事情
- * 「共同富裕」が実現しない理由
- * 中国ビジネスの行方
- * 日本の対中姿勢について
- * 中国共産党の危機はいつ到来するか
- * 習近平の本音は米中対立の緩和
- * チャイナ・ネットワークという視点



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ほぼ1年ぶりだと思いますが、柯隆先生にお願いいただきました。改めてご紹介の必要もないかもしれませんが、中国から日本に留学をされ、その後、日本で中国に関する研究をされておられます。

ちょっと日本人では思いが届かない、あるいは情報が十分でないようなことをきちんと毎回お話をいただいております。習近平が3期目に入りまして、われわれから見ると、いったいどうなっているのかということが非常に多いわけですが、今日はそういったことも含めてじっくりお話をいただけたと思います。

それでは、柯隆先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

中国の「反スパイ法」の執行

柯 皆様こんにちは。ただいまご紹介いただいた柯です。ほぼ1年ぶりなんですけれども、昨年ここで皆様にいろいろご報告申し上げましたが、あれからまた中国情勢は大きく変わりました。変わりましたけれども、何よりも日中関係がまったくよくなっていないくて、先日、中国に駐在していた日本人の駐在員が一人、スパイ活動容疑で拘束されたわけです。これから中国はどうなるか、あるいは日中関係はどうなるか、それを中心に、今日は皆様にご報告を申し上げますと思います。

その前に、昨年2月、ここにお邪魔したときに日暮さんから、「柯隆さん、毎年あなた、ここ